高鍋9連覇

星雲を80—0

全国高校ラグビー県予選最終日

ラグビーの第99回全国高校大会県予選最終日は10日、県総合運動公園ラグビー場で決勝を行った。高鍋が80—0で延岡星雲を破り、9年連続32度目の優勝を果たした。

高鍋は序盤から主導権を握り、前半7分のFB細元亮の先制トライを皮切りに計7トライ。47—0で折り返し、後半も攻守に付け入る隙を与えなかった。3年ぶりに決勝に進出した延岡星雲は持ち味の堅い防御を崩され、終始自陣でのプレーを強いられた。

高鍋は12月27日に大阪府東大阪市花園ラグビー場で開幕する全国大会に出場する。組み合わせ抽選会は同7日に行われる。（鳥原章弘）

▽決勝

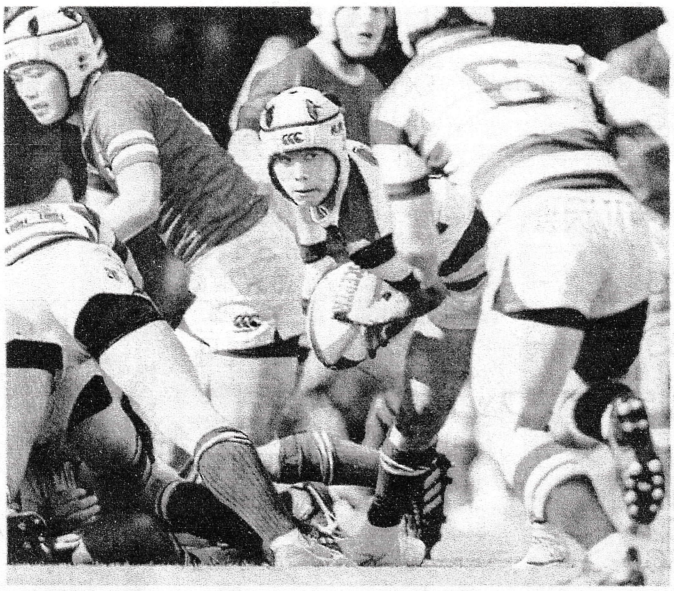
高鍋 80（47—0、33—0）0 延岡星雲

	TGP前	TGP後	計
延岡星雲	0000	0000	0
高鍋	7604	7540	33 80

【延岡星雲】
FW
光藤雅太郎 桶崎健光太郎 寺斗
大槻尚太 伊太 高湯聡斌雄
HB
長谷 藤田 長部 渡邊 越木 杉山 高
小佐野 川崎 宮浜 宇高 川黒 上田 日
TB
心拳吾也 真天奈也倫 真鶴翔 拓亮
太永大駿 福岡 河海 拓由雄 俊
FB
淺松上田 藤本本 藤栄上藤木中髙元
漫吉井 髙伊橋松 髙自羅近薫田松細

【高鍋】
FW
長谷 藤田 長部 渡邊 越木 杉山 高
小佐野 川崎 宮浜 宇高 川黒 上田 日
HB
心拳吾也 真天奈也倫 真鶴翔 拓亮
太永大駿 福岡 河海 拓由雄 俊
TB
淺松上田 藤本本 藤栄上藤木中髙元
漫吉井 髙伊橋松 髙自羅近薫田松細
FB

▽交代【高】中宮享鴻（伊藤）河野大夢（鴻巣）黒木拓弥（吉松）関屋幸大郎（井上）小野原匠（松本）青柳悠紫（福本）高山功志朗（猪上）若松勇吹（松尾）【延】下田皇大郎（甲斐大）



【決勝・高鍋—延岡星雲】巧みなボールさばきと状況判断で優勝に導いた高鍋の白栄（中央）（那良卓郎撮影）

ハイライト

「高速展開」12トライ

掲げる「高速展開ラグビー」の集大成へ、また一歩近づいた。高鍋フィフティーンが忠実に役割をこなし、思い通りにグラウンドを支配した。檜室秀幸監督は「相手に攻撃らしい攻撃をさせなかった。アタックもいい」。12トライ、無失点で手にした、9年連続花園切符に及第点を与えた。

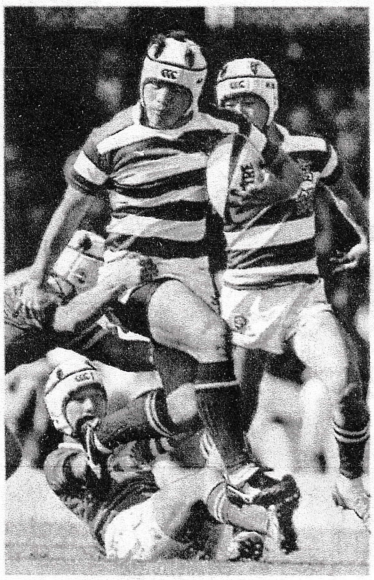
ここ2年続けて全国は初戦敗退。檜室監督は、要所での力の差を「状況判断」と感じ「15人それぞれが先を見て、アタック、ディフェンスに入ることを、じっくりたたき込んできた」という。

練習や遠征で地道に磨いてきた、その「考える力」が、持ち前の「速さ」を大きく成長させた。この日の決勝。立ち上がり、延岡星雲が自慢のFWで圧力をかけてきた。そんな状況にSH白栄拓也は「予想通り。自分の動きを見ていると分かったので、自分を出しつつも、回りを生かそうと思った」。冷静にゲームを組み立て直し、相手の気迫を空回りさせた。

司令塔の動きに仲間も同調。それぞれが的確な判断力を見せ、左右、縦へ15人一体となってスピード豊かにボールを動かし、トライを量産した。

ディフェンスも崩れず。素早いライン整備と効果的なタックルはもちろん、相手モールには「練習で対策してきた。低く入り進ませなかった」とナンバー8齊藤瑠海奈。ハイパントでの局面打開を狙ってきた場面では、重圧をかけて〝ミスキック〟も誘発し「100点に近い」（檜室監督）というキャッチングから、一気にスペースを突いた。

15人全員が足を止めることなく効率良く60分間動き続け、県新人、県総体に続く無失点で、秋を締めくくった。細元亮主将は自信を深めた様子で「いい戦いはできた。これからはもっと花園をイメージして練習に取り組みたい。ベスト8以上を狙う」ときっぱり。花園までに「高速」を完成させ、今年こそ伝統の白と緑のジャージーをとびっきりの輝きを放つ覚悟でいる。（鳥原章弘）



【決勝・高鍋—延岡星雲】前半9分、自陣からパスをつなぎ一気にトライを決める高鍋の吉松（中央）（那良卓郎撮影）

グラグビーで高鍋が圧倒した。SH白栄が巧みにリードし、堅守から前半7分にFB細元が先制トライ。2分後に自陣から一気に攻め立てHO吉松が加点すると、さらに攻撃のテンポが上がった。左右への素早い展開に加え、縦のスペースも逃さず前後半計12トライ。組織的なディフェンスも崩れず得点を許さなかった。

延岡星雲は開始早々に好機をつくったものの、ミスから先制機を逃し、以降は攻守に翻弄（ほんろう）された。

高鍋・SO猪上由倫（決勝を振り返り）「臨機応変にゲームメークはできたと思う。大外まで使った展開ラグビーができるようにしっかりと練習し、花園に臨む」

高鍋・CTB黒木魁（優勝に）「後半にトライを取れ、貢献できてうれしい。試合全体では（白栄）拓也が突破力があるので、しっかりとフォローできるように心掛けた。持ち味の低いタックルを磨いていきたい」

高鍋・FL橋本尚宣（相手FWに勝ち）「体は小さい分、とにかく動いてディフェンスした。練習してきたダブルタックルはますますうまくできた。あと1カ月、フィジカルを上げていきたい」

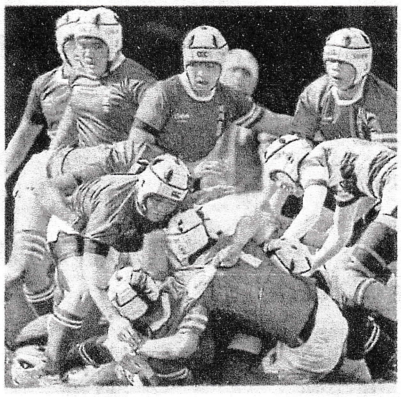
高鍋・FL松本剛大（2年生、優勝に貢献）「入りがまずかったけど、3年生が流れを引き戻してくれ、以降は自分の持ち味の当たりの強さを出すことだけを考えた。花園では後悔のないプレーで先輩たちをサポートする」

星雲 圧力かけ切れず

○…「FW勝負」と意気込んだ延岡星雲。ただ、高鍋のアタック、ディフェンスは「何枚も上手だった」とHO佐藤駿主将。なすすべなく60分が過ぎ、フィフティーンは涙を流した。

立ち上がりは攻めた。相手ミスを突き、得意の密集戦。FW一体となりインゴールまで迫ったものの、あと一歩及ばずはね返された。「一瞬、気落ちした」ところで一気に主導権を奪われ、準決勝までは機能した圧力をかけ切れず。ディフェンスの穴を次々と突かれ、ハイパントからの反撃もことごとく不調に終わった。

0—80と、予想以上の完敗。だが、最後まで下を向くことなく、持ち味のFWにはこだわり続ける意地は見せた。佐藤主将は「自分たちがやってきたことは出し切れたと思う」。そう話し、高校ラグビーに別れを告げた。



【決勝・高鍋 延岡星雲】後半、密集戦で懸命にボールをキープする延岡星雲FW陣（那良卓郎撮影）

ラグビー

◇全国高校大会代表決定戦（10日）

▽栃木 国学院栃木45—0佐野日大（国学院栃木は20大会連続25度目の出場）▽群馬 桐生第一19—17県太田（桐生第一は2大会連続2度目の出場）▽山梨 日川51—5東海大甲府（日川は14大会連続49度目の出場）▽岐阜 関商工26—19岐阜工（関商工は2大会連続39度目の出場）▽滋賀 光泉63—0滋賀学園（光泉は3大会ぶり9度目の出場）▽大分 大分東明17—14大分舞鶴（大分東明は初出場）▽鹿児島 鹿児島工41—19鹿児島玉龍（鹿児島工は6大会ぶり13度目の出場）